

## ～20歳になったら国民年金～

国民年金は年をとったとき、病気や事故で障害が残ったとき、家族の働き手が亡くなったときに、働いている世代みんなで支えようという考えで作られた仕組みです。20歳以上60歳未満の方は加入することが義務付けられており、20歳になると日本年金機構から国民年金加入のお知らせが届きます。

## ■国民年金のポイント

○将来の大きな支えになります

国民年金は、20歳から60歳までの方が加入し、保険料を納める制度です。

国が責任をもって運用するため、安定しており、年金の給付は生涯にわたって保障されます。

○老後のためだけのものではありません

国民年金は、年をとったときの老齢年金だけではなく、病気や事故で障害が残ったときに受け取ることができる障害年金や、加入者が死亡した場合、その加入者により生計を維持されていた遺族（「子のある配偶者」や「子」）が受け取ることができる遺族年金もあります。

国民年金のご相談・お手続きについては、役場町民課住民グループ福祉年金担当窓口または函館年金事務所までお問い合わせください。

## 国保病院のお医者さん

## 変化の中にある期待

内科医 奈良原 裕

新年あけましておめでとうございます。国保病院非常勤医の奈良原裕です。私は、神奈川県横浜市にある病院との兼務で2022年4月から国保病院で働いています。勤務日は、水曜日の夜間救急から金曜日の午前外来まで。内科、外科、学校健診、果てはカテーテル治療や手術なども担当しています。木古内町とのご縁は約5年前の2018年からで、当時は新幹線に乗って来町し、内科外来を行ったのちに日帰りしていました。

当時の日帰り診療は2019年度末で一旦終了しましたが、今回は二泊での勤務です。3年ぶりの木古内町は新しいホテルが出来ていたり木古内インターが開通していたり、変わらないようでもいろいろ変わっているとも感じています。

病院はと言いますと、やはりなんと言っても新型コロナウイルス感染症により診療体制も職員の意識も、そしてもちろん経営的な面も大きな変化を余儀なくされています。特に、コロナ重点医療機関である当院では、コロナ専用病棟や発熱ドライブスルー外来の設置など他施設と比べても多くの変化・対応を行ってきており、現在でも日々、細かな修正や改善を行っています。

世の中に目をやると、コロナパンデミックは地球規模ですし、ウクライナ戦争もまた世界のあり方を変えつつあり、私たちの日常生活に変化や影響を与えています。たった数年間ですが、町も病院も世界

も規模の大小こそあれ、その変化は枚挙にいとまがない程です。一方で、自分の意識だけはなんだかそのまま変わっていないようにも感じます。

さて、日本は2025年に団塊の世代が後期高齢者となり、2040年には高齢者数がピークを迎え、超・超高齢化社会となるのは必至です。さらに、日本の人口減少は加速しており、ここ木古内町でもその傾向は避けがたいところと思います。こういった話を聞くと、なんだか暗い気持ちになってしまいましたが、よく考えてみると、「変化していくことは必然であって、いつまでも変わらないと思う感覚の方が誤解である」と言えないでしょうか。

かかるなか、国保病院では医師・看護師だけでなくあらゆる医療スタッフが慢性的に不足しており、現在の医療サービスを提供し続けることが年々難しくなっています。それでも、昨年度からは新しい治療（カテーテル治療やマイクロ手術など）を開始しており、ここ最近では近隣の町立・道立病院から頼られる分野を持てるようになりました。

大切なことは、取り巻く環境が変化していくことを必然だと捉え、その対応や取り組みの中に新しい期待を見つけ、それをみんなで積極的に明るく楽しんでいくことではないでしょうか。そうしたら、今よりもベターな未来が作れるのではないかと私は思うのです。